

船舶事故調査報告書

令和2年1月22日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年9月8日 04時45分ごろ
発生場所	広島県江田島市小用港南方沖 小用港秋月東防波堤灯台から真方位163° 1,600m付近 (概位 北緯34° 12.9′ 東経132° 29.9′)
事故の概要	プレジャーボートひばごんは、南南西進中、かき養殖施設に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年9月19日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート ひばごん、5トン未満（長さ6.34m）
船舶番号、船舶所有者等	270-39508広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	本船 左舷船底部外板に擦過傷 かき養殖施設 なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東北東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期 日出時刻：05時48分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人1人を乗せ、操舵室内に設置されたGPSプロッターの電源を落とし、約10ノットの対地速力で南南西進中、船長が、周囲が暗く、見えにくさを感じていたものの、沖合を航行しているので、かき養殖施設に乗り揚げることはないと思い、船首方を見て航行していたところ、‘小用港南方沖に設置されたかき養殖施設’（以下「本件施設」という。）に乗り揚げた。</p> <p>船長は、本事故後、周囲を見たところ、本件施設に設置された灯光を認めた。</p> <p>本船の喫水は、船首及び船尾共に約0.2mであった。</p> <p>船長は、本件施設が設置されていることを知っていた。</p>
分析	本船は、南南西進中、船長が、周囲の見えにくさを感じていたものの、目視のみで航行を続けたことから、本件施設に接近していることに気付かず、本件施設に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、南南西進中、船長が、目視のみで航行を続けたため、本件施設に接近していることに気付かず、本件施設に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

	<ul style="list-style-type: none">・ 夜間航海時は、目視のみに頼らず、GPSプロッター等を活用して船位及び養殖施設の位置を確認すること。
--	---